



安曇野市

第27号

農業委員会だより

写真の記事

5月下旬の明科七貴天王原の
ブドウ畑



● 主な内容 ●

- 明科地域農業を守る会… 2
- 農業委員報告…………… 3
- がんばる農業者……… 4～5
- 農業委員会意見書…………… 6
- 30年功績者表彰 ……… 7
- 私のおすすめ
句の一句・一首…………… 8

発行日／令和元年7月3日(水)
 編集と発行／安曇野市農業委員会
 安曇野市豊科6000番地
 tel 0263(71)2497
[農業委員会事務局ホームページアドレス](http://www.city.azumino.nagano.jp/gyosei/kakuka/nogyo/index.html)
<http://www.city.azumino.nagano.jp/gyosei/kakuka/nogyo/index.html>
 申請書、届書のダウンロードができます。

現在の農業情勢について

会長 中島 完二

風薫る新緑の季節、農作業も本格的になってまいりました。市民の皆様におかれましては、日頃から農業委員会の活動に对您のご支援、ご協力を頂き有難う御座います。

さて今年の冬は雪も少なく、異常気象に依る災害が少ないと思っておりますが、4月28日と5月8日に凍霜害が発生し、安曇野市においては梨の南水を中心に2億円の被害が発生しました。被害にあわれた農家の皆様には心からお見舞いを申し上げます。

現在の農業情勢を見ますと、農地中間管理機構関連改正法が5月17日に可決成立し、5月24日に公布となりました。大きな改正点は、農地利用集積円滑化事業を廃止し農地中間管理事業に統合するということです。また、担い手への農地集積がスムーズに行われていないので「人・農地プラン」の充実を図るため、地域での話し合いを進め、農業委員、農地利用最適化推進委員の役割を明確にするというものです。平成30年度3月末の担い手への集積率は全国で55.2%、長野県では36.5%でしたが、令和5年迄には80%にするということです。

また、今年の秋から「食料・農業・農村基本計画」の見直しに向けた検討が本格化する事になっており、さらに2年後には農業委員会法の見直し検討も控えており、農業委員会組織として結果を出して行かなければなりません。

海外貿易については、昨年の12月30日にTPP11が発効し、本年の2月1日には欧州EPAが発効されました。今後米国とのTAG交渉が始まりますが、関税率の引き下げにより、国内の市場開放がさらに進み国内農産物への影響が懸念される為、引き続き国の施策動向を注視する必要があります。

安曇野市農業委員会も新体制になり、間もなく1年になります。が、農業委員、農地利用最適化推進委員と力を合わせ「農地の最適化利用」に向けて更に努力してまいります。

遊休農地活用シンポジウムで明科地域の農業を守る会が「長野県知事賞」を受賞しました。

平成31年2月6日、長野県他4団体が主催する平成30年度遊休農地活用シンポジウムの席において、「明科地域の農業を守る会」が地域における遊休農地の発生防止と解消並びに事業の継続性とワイン用ブドウの産地形成に向けた取組が、先進的な事例として評価され、県知事賞を受賞されました。ますますのご活躍をお祈り申し上げます。

この度は「県知事賞」を頂き厚くお礼申し上げます。

私ども「明科地域の農業を守る会」は、平成



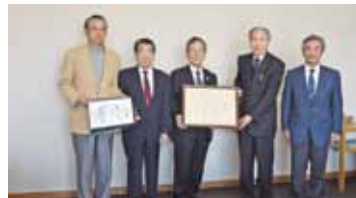
県知事賞を受賞する藤原副会長

25年に明科地域の農地と水並びに景観を守ることを目的として設立し、その活動対象を上押野天原に広く存在する荒れ果てた桑園の再生整備とワイン用ブドウの産地形成に向けて取り組んで参りました。現在、公募にて選ばれた3名が就農し、当初設定をした荒廃農地の80%程度、ほぼ10haに1万本規模のワイン用ブドウが定植され、その一部が平成30年度から本格収穫の時期を迎え、市内ワイナリーの力を借りての委託醸造・販売というところにもまで漕ぎ着ける事ができました。

これもひとえに、守る会設立当初から全面的な御理解・御協力を頂いた、地元上押野地域・農業委員会・農業団体・行政や地元農業高校の皆様等々、大変多くの方々からのお力添えの賜物と感謝申し上げます。

当明科地域には、まだまだ多くの遊休荒廃農地が存在しています。この天王原で培った荒廃農地の再生事業の経験を活かし、地道ではありますが、一步一步これからも取り組んで参りたいと考えております。

明科地域の農業を守る会



2月18日宮澤市長へ表敬訪問



事例発表後の質問に答える
請地さん・池上さん



受賞後の「守る会」会員や農業委員

農業委員報告

猿害の話 《猿吉くんのお話》

こん にちは、おいらは安曇野市の西山奥に仲間と暮らす猿吉です。

今日は天気も良いので友達と一緒に里に降り、農家の皆が大切に育てた作物を、腹一杯食べようと相談していたところですよ。そこへ西山の猿蔵区長さんが、息を切らせて飛び込んで来て今晚大切な話があるから、一本杉の集会所へ集まるようにと言っていたよ。

陽が 落ちて皆が集まると猿蔵区長さんが、怖い顔をしてこ

んな話を始めたのさ。「皆さんお忙しいところお集まりいただき有難うございます。先日西山山麓一带の区長会議で情報担当がされた話じゃが、われわれ仲間が現在どこで暮らしているのか人間にすぐわかってしまう装置ができればいいのだ。今他の山々にも実験的に使われているらしい、との情報じゃ。「えーどうして判るの？だって山はこんなにも広いし、俺たち仲間も人間に見つからないように暮らしているのに」「ようし、詳しい話をしてやろう。先ず人間は里山の目立つた所に『大型箱わな』を設置するそうじゃ。箱の中には誘因餌と言って、われわれが大好きな林檎や芋、バナナなどが置いてあり、それが遠くから見えるらしい。

猿吉 なんかはすぐに入ってしまったうだろうな。捕まえられた



首輪装着のための箱わな



GPS 発信機：衛星を利用した滞在位置特定
サル滞在位置を自動的に記録

仲間の雌猿一匹の首に首発信器を装着し放してやるのだ。「えーどうして雌になんですか？」「猿吉は大人になると群れから離れていくつ迄も仲間と一緒に暮らしているからだ。首発信器を着けた仲間は群れに戻り我々と行動を共にするだろう。」

「発 信機を着けているとどうして居場所が判るの？」それはGPS（衛星利用測位システム）と言って首発信器から電波が発信され、衛星を利用し滞在位置を特定し、測位データは首発信器内にストックされるのだ。そのストックされたデータを時々人間がダウンロードしパソコンやスマートフォンで確認できるからだ。それを利用して群れの追跡や我々の移動経路を解析し、作物被害防止対策や、生育環境管理に役立たせているのじゃよ。首発信器の電池寿命は1年程度で、基地局を設置すれば我々から4〜6km位まで離れていても自動受信できるらしい。だからむやみに里へ降りてはいけないよ！」

農業 委員会では猿害のみならず鳥獣被害対策を真剣に考えています。このGPS対策も地元企業さんからの資料提供を頂くと共に講習会を開催し少しでも作物被害防止へと取り組んでいる所です。地域の皆さんが共通認識を持ち対策を考えることが大切ですので、皆様のご協力をお願いします。

農業委員 佐原 悦司

がんばる農業者



鹿川さんのりんご畑



左が親父さん 右が和朗さん・由佳さん

鹿川 和朗・由佳さん

父：紳一さん

(堀金 三田地区)

経営面積等 りんご …… 160a

Q 鹿川さんが農業をはじめたきっかけは何ですか？

A 農業には小さい頃から興味がありました。進学した大学での専攻は農業関係ではありませんでした



スピードスプレーヤー

が、将来は地元に戻って農業をやりたいという夢を叶えるため、中村フルーツ農園さんで5年間研修させていただき独立しました。

Q 農業経営を行う中で大変なのはどんなことですか？

A りんご栽培は、暑い日も、寒い日も、一年中仕事があります。また、今年のように霜にあったり、木が病気になるたりもしますが、自分で一から育てられるところが一番の魅力であり、仕事は全然苦ではありません。

Q 今後の目標を教えてください。

A 私の面積をしっかりとやれることができてから、高齢で栽培出来なくなった方の土地などを借り受けて、経営規模を拡大しながら、高密度植わい化栽培を進めて行きたいと考えています。

Q 現在取り組んでいることを教えてください。

A まだ始めたばかりなので技術的なことはできていませんが、リングをやっていると日々の勉強になることや色々私なりのやり方が見えてきているので実践して行きたいですね。

今は畑をきれいにすることや、作業一つ一つを早く終わらせて良い物を作るよう心がけています。

Q では、最後に地域の皆さんへメッセージをお願いします。

A 私が独立してできているのも地域の人たちの支援があったからなので感謝しています。まだまだ未熟な所がたくさんあるのでいろいろと教えてください。よろしくお願いします。



ふじの摘果作業する鹿川さん

がんばる農業者



山口 希さん
(豊科 吉野地区)

経営面積等 わさび田 … 50a

Q 山口さんが農業をはじめたきっかけは何ですか？

A 県農業大学校卒業後、農業機械販売会社に勤めたところ、農家さん周りをしているうちに自分自身が「農家」になりたくなったのがきっかけです。そして22歳で北穂高生産組合に入り、14年間勤務しながら農作業の基礎を学びました。その後株式会社「十一屋」を設立し3年目に農業参入し、わさび栽培を開始し5年目になります。

Q 農業経営を行う中で大変なのはどんなことですか？

A 資金繰りです。作業はポトルネットの把握ができれば分散できますが、収穫に1年以上かかるため、キャッシュに余裕をもつ必要があります。

Q 現在取り組んでいることを教えてください。



山口さんが栽培を手掛けているわさび田

A 技術経験がまだまだ浅く、たくさんの方から教えていただいている状態です。基礎技術を徹底して学び活用したいです。就労支援B施設様と仕事をさせていただいています。今は収穫作業を中心に作業していただいています。任せる範囲を広げていきたいです。

Q 今後の目標を教えてください。



わさびの花



わさびの様子を見る山口さん

A 経営理念：作物を通じて地域と産業が継続できる利益を追求していきます。経営ビジョン：「地域とともに作物でつなぐ」私達は栽培、荒廃地の復旧、農地の継承、販売と生産の共生、新技術への投資を行い地域と生産者が健やかである営農活動を大切にしていきます。理念、ビジョンが達成できるようにしたいです。

Q では、最後に地域の皆さんへメッセージをお願いします。

A 私は非農家の出身ですが22歳の時から安曇野の皆様に温かく、時に厳しく育てていただきました。今日こうして「農家」として仕事をさせていただけることをうれしく思います。先代の皆様がつないでくれたバトンを私も次の世代につないでいけたらと思います。今後とも温かく見守っていただけたら幸いです。

安曇野市農業施策に関する意見書への回答を受けました。



高嶋農林部長より回答書を受取る中島会長



今年3月に提出した「安曇野市農業施策に関する意見書」に対し、市長より回答がありました。回答の主な内容については次のとおりです。

1 担い手への農地集積・集約化について

① 基盤整備の推進

ほ場整備による大区画化や幹線道路の整備等の計画的な基盤整備を要望します。

【回答】 受益者の合意に基づく具体的な要望箇所がある場合には、受益面積等により事業の選択を検討いたします。

② 大規模農家に限らず中規模農家や新規就農者に対しても、機械購入補助の拡充やオペレーターの育成、リモートセンシング技術の農業導入への推進及び助成を要望します。

【回答】 集落営農組織への機械購入補助制度を設けておりますが、農業機械は高額で中規模農家等への拡充は予算的に困難なため共同利用できる集落営農組合の検討をお願いいたします。リモートセンシング技術についてはモデル事業として支援などの検討考えております。

2 安曇野産農産物の販売促進とブランド化について

① 安曇野産米の販売促進

「ゆめしなの」「風さやか」が安全・安心で、高品質であることを消費者にわかりやすく、さめ細やかな販売促進を要望します。

【回答】 関係機関と連携しながら進めていきます。

② 安曇野産農産物の高ブランド化の推進
競争力のある農産物のブランド化の方策と

してGI、GAP認証の取得は不可欠です。「安曇野市単位」のみでは普及、推進に限界がありますので、県、JA等と連携した取組み、支援を要望します。

【回答】 松本農業改良普及センターやJAとも連携し積極的に活用していきます。

3 山麓地域における猿害対策について

① 防除対策及び被害地の管理の推進

二ホンザルを地域に寄せ付けないよう廃果、農産物残渣の適切な処理、柿、栗等の農産物以外の誘引物の適切な管理の徹底や観光客等にエサを与えないよう普及啓発を実施するとともに農地周辺の山林部での緩衝帯の造成や刈払いに係る補助事業の創設を要望します。

【回答】 農作物の廃果処理、観光客のエサやりについて、引き続き市報等で広報していきます。また、エサやり禁止周知看板は必要に応じて地域へ配布しており、緩衝帯整備については本年度も実施します。

② 防除対策のリーダーとなる人材の確保と育成
防除対策は個人での取り組みには限界があり、地域一丸となった取り組み、また地域には中心的に活動を担えるような人材が必要で、防除計画策定に地域住民が自ら参画し、鳥獣被害に対する意識を高めることのできる体制、組織づくりを要望します。

【回答】 市もできる限りの支援をしていきます。また、農業委員・最適化推進委員も地域の核となつて、呼びかけを行うなどご協力をお願いいたします。

③ モンキードッグ事業の拡充

犬による追い払いは、鳥獣害対策に非常に有効です。当市においても、養成、訓練費等補助対策が講じられていますが、オーナー数

が少なく広域的な活動には限界があります。つきましては、オーナーとなる人材の確保と補助事業の拡充を要望します。

【回答】 市としては支援制度を設けており地域での活動が重要と考えます。モンキードッグの活用は、二ホンザルの追い払い対策の一つとして効果があることから、活用事例など広報等で周知していきます。

④ 個体数調査及び管理の推進

被害地域に生息する二ホンザルの行動状況をGPS(衛星利用測位システム)の機器を用いて行動を補足することにより加害群、加害個体を特定し、被害防除対策を効果的に実施できるようにこれらの機器の導入を要望します。

【回答】 GPS導入の準備をしています。まず効果的に防除対策に活用するには地域での防除意識の向上が必要と考えます。

4 農産物に係る市独自の防除条例の策定について

市内三郷地域はリンゴを中心として、果樹生産が盛んな地域です。適格な防除を怠ると感染拡大を招き、防除対策に過大な経費を要し経営の圧迫につながり、さらに安曇野産りんごのブランドイメージへの影響が危惧されます。

JA等の関係機関と連携を図るなど、指導体制の構築を盛り込んだ防除への努力義務を課す防除条例の策定を要望します。

【回答】 今年度、黒星病に対応した防除暦により防除が強化されているところでもあり、また低農薬・無農薬栽培に取り組む農家に対しての補償等の問題もありますので、JAや農業改良普及センター等関係機関とも協議する中で、条例制定の可否を含め検討していきます。

平成30年度松塩筑安曇農業委員会協議会功績者表彰

平成31年2月25日、松本文化会館キッセイ文化ホールにおいて「平成30年度農業功績者表彰式」が開催され、「一柳 進さん」、「中田 栄さん」が個人として表彰されました。
 ますますのご活躍とご繁栄をお祈り申し上げます。

平成30年度松塩筑安曇農業委員会協議会において、「地域農業功労者」表彰を頂き、厚くお礼申し上げます。

私の住む穂高有明豊里地区は昭和20年戦後の開拓地として松本歩兵50連隊演習地跡地245ヘクタールに76戸入植したのが始まりです。営農指導は畑作畜産（酪農）でありました。入植当初より営農指導そのままに農業を続けて参りましたが環境は大きく変化をして来ております。国有地を私有化して、更にこの土地を宅地転用し売却、その結果現在は400戸を超す家が点在しております。地域活性化と喜ぶ人もいる一方農業がし辛くなってきたと横目で見える方が混在しています。酪農を営むものとしては、広々とした土地で手足を伸ばして仕事に取組みたい心境ですが、家ができた、また家ができた、土地が高く売れたと言って喜ぶ方もいるという状況に複雑な思いも生まれています。開拓当初、過半数が畜産農家でしたが、時代とともに減っていき酪

農家は我家一軒となりました。
 時代はさらに進み、農畜産物の総輸入自由化体制が作られようとしています。

地域から農家が消え、畜産が消え去ろうとしています。このような中にあっても、おいしいものを安心安全に提供したいと誇りもって酪農業を続けたいと思います。

平成7年に法人化しました。従業員が10名程になり、社会保険等の加入を初め法人としての様々な対応を義務付けられております。どんなに時代が変化しようとも酪農業は必要不可欠な産業と位置付け、これからも長くこの経営を続けていきたいと考えますので、ご理解、ご協力、ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。

有限会社北アルプス牧場 一柳 進



一柳 進さん



農業活性化推進研修会場

この度は、平成30年度松塩筑安曇農業委員会協議会の席において地域農業振興等功績者表彰を頂き身に余る光栄に厚く御礼申し上げます。

私も長年のりんご作りでりんごのことなら何でもやって来ました。S(S(スピードスプレイヤー) 共同防除組合を立上げ、青森県りんご協会に問い合わせ農業ミクロデナポンによる薬剤摘果又昭和32年に農協にも無かったりんご冷蔵庫を作り東芝の冷凍機一号を取付けました。

その後小倉りんご部会の役員を11年して居るとき、東京の三越百貨店が全国の一流品を会員のお客様に配達する品物にまで小倉のりんごの名声を高めました。

その後昭和62年8月旧三郷村農業委

員に選出され平成2年に二期目平成5年に三期目にと9年間平成8年まで委員として籍をおき三期目には皆様におかれ56歳で会長として荒廃地問題、農地転用等委員の皆様協力して頂きました。8月60歳で退職しほつとする間も無く11月には中信平左岸土地改良区の理事に選出され旧梓川村から山添地帯を穂高までの畑地灌漑の仕事で自分の畑も恩恵を受けるのに避けて通るわけにもいかず8年11月より三期12年72歳でやっと身軽にしてみました。しかし今後もしっかりと応援して行くつもりです。この度の受賞誠にありがとうございました。

中田 栄



中田 栄さん

私のおすすめ



安田 洋子委員

これから、きゅうりも玉ねぎも梅干しも沢山できますよね。安曇の米豚でビタミンB1をとり、さっぱりとした味で夏を乗り切りましょう。

- ① きゅうりはピーラーで縦にそぎ切りして水に放しパリッとしたらザルにあげ、水を切っておく。
- ② 鍋にたっぷりの湯を沸かし①を加えて弱火にする。豚肉を少しずつ入れ、さっと火を通してザルにあげ、薄口しょうゆをふり混ぜる。
- ③ ②の梅干しは種を除いてたたき、他の②の材料と組み合わせる。
- ④ ①と②を器に盛り③をかけて召し上がれ。

作り方

- 食材
 - きゅうり 3本
 - 米豚バラ薄切肉 250g
 - ① 長ネギ（青い部分） 1本分
 - しょうが薄切り 1かけ分
 - 薄口しょうゆ 小さじ2
 - 玉ねぎすりおろし 80g
 - しょうゆ 大さじ 1と1/2
 - 酢 大さじ 1
 - 梅干し 2個

作ってみよう
「きゅうりとゆで豚の梅だれ」

旬の一句・一首

荒代し

水辺清めし

豊作願う

豊科 高橋 修 委員

エンジンの

音にわき立つ虫達を

射ては運びつ

我子のもとへ

穂高 穂高 コマさん
(ペンネーム)

植田吹く

風の清しき朝なりし

今和の御代も

農に幸あれ

三郷 降旗 幸子さん

百歳を

祝う電話や

小鳥来る

堀金 丸山 和加子さん

田植えすみ

田に囲まるる我が家は

蛙の声に夜の賑わい

明科 横山 展子さん

編集後記

私は現在、農業者年金加入推進部長をさせていただいております。

農業者年金制度は、農業者の老後生活の安定及び福祉の向上と農業者の確保に資することを目的とする公的な終身年金ですが、昭和45年度に創設され、平成13年度に現在の農業者年金制度に改正され、大変魅力的な制度となっております。

今、人生100年時代が到来し、平均寿命が男女とも長くなるなかで、高齢農家の生活費は、月26万円にもなり、国民年金だけでは、月額で10万円以上不足するとも言われており、この不足額を補う為におすすめしたいのが、農業者年金への加入です。

加入資格は、年間60日以上農業に従事する、国民年金の第1号被保険者（国民年金の保険料納付免除者を除く）で、20歳以上60歳未満の方なら、農地を持たない方も加入できます。

加入と脱退は任意で、保険料は月額2万円から6万7千円までの間で、千円単位で自由に選択でき、見直しもできます。また、その年に払った保険料が全額社会保険料控除の対象になるなどの税制優遇措置があります。

加入の相談など、お気軽に市農業委員会事務局や、JA担当者にお問い合わせください。

編集委員 堀金 猿田 久雄 委員